

---

# パーティーメンバーは...!

鈴龍

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

パーティーメンバーは…！

### 【Nコード】

N0395H

### 【作者名】

鈴龍

### 【あらすじ】

勇者に選ばれた主人公クルツはパーティーメンバーを捜しながら魔王討伐に向かうことになった。クルツの一番最初のパーティーメンバーとは…！？

(前書き)

駄目な作者が書いた駄作ですが呼んで頂ければ、幸いです。

どうも、皆さんこんにちは。

俺、一応勇者やっててクルツって言います。

なんで勇者やってるかって言うと、この世界には魔王が存在し、魔王は魔物を使って人々に害をなしている存在として言い伝えられているから。ベタな話なんですけど

ここまで話をすれば察しのいい人はお気づきでしょうが、俺は魔王を倒すべく神様の導きによって選ばれた勇者なんだとか。これまたベタだけど

3

まあ、そんなわけで王様に魔王討伐をお願いされたんだが………なんか、パーティーメンバーは自分でなんとかしろって言われた。

えっ？普通、一人か二人ぐらい最初から仲間がいるもんでしょ？魔法が使える幼なじみ（女性限定）とか国の騎士団から剣と魔法の腕が立つ騎士（女性限定）とか

パーティーメンバーが一人ぐらいいないと俺すぐ死ぬよ？剣の腕と

かゴブリン一団でギリギリだし

そう、王様に訴えてみたが

「黙れ、小僧！」「って言われて城から鎧とか剣とかの装備一式と一緒に放り出された。

その場で一時間ぐらい体育座りしながら泣いたね。

だって、一応俺勇者だよ。最初は待遇良かったのに討伐しに行く時にはこれだよ。

まあ、そんな話はその辺に置いてパーティーメンバーを捜して魔王討伐のために旅でた訳なんだけど。

「ホントオオオオオにスイマセンでしたあああああ！ゴブリン一団ぐらいに勝てるのか言ってええええええ！！」

今、物凄い速さで走ってゴブリンから逃げます！

その話の経緯を話すと…町から出て森を歩いているとゴブリン一団に出会って攻撃を仕掛けたけど全然、攻撃が効いてなくてブチギレたゴブリンが追いかけて来たってわけだ。

「ウワツ!!」 「キャ！」

後ろを見ながら走って回想してたら誰かにぶつかっちまった。しかも、ぶつかった奴の声からして女の子みたいだな。何もこんな時じゃなくてもっと他の所でぶつかって欲しかった。

「イタタツ!だ、大丈夫か？」

「あ!はい、大丈夫です。」

「そうか、良かった」

「グウオオオツ!」あ…」

わ、忘れてた…ゴブリンの存在を。

完

まだ、終わらねえよ！普通に話の続きあるから！

「やべえ、ゴブリンのことすっかり忘れてた！」

「え？ゴブリンなんか追われてたんですか？剣士なのに？」

「グフウ！い、痛いところ突いてくるな嬢ちゃん。そうさ、俺は勇者に選ばれたのにゴブリン一体も倒せねえよ！悪いか！一回も戦ったことない一般市民に

「お前、勇者に選ばれたから」なんて言われてもいきなり強くなるわけなかるうが！」

「す、すみませんでした！（こ、この人が今回選ばれた勇者なんだ）

」

「わかってくれたならいい」

「あ、はい。それにしてもこのゴブリンどうします?」

また、忘れてた…さっきよりも息荒くして今まで以上にキレているようだ。そんなことを考えているとゴブリンが槍で攻撃して来た!ゴブリンの攻撃に剣を使って防御体制に入ることが出来なかった俺は、もうダメだと思っ腕を顔の前で覆って目をった。

「グウオオオツ!!!」

「う、うわあああああ!」

「永遠の寒さと痛みの中に眠れ。氷河雪!」

ゴブリンに殺されかけた俺を助けてくれたのはさっきぶつかった女の子だった。彼女は氷属性の魔法を使って意図も簡単にゴブリンを氷漬けにして倒してしまったのだ。

「ふう、大丈夫ですか?」

俺は彼女に思いつ切り頭を下げてこう言った。



「俺と一緒に旅（魔王討伐）に行ってください！」

俺のとんでもない言葉に目を点にした彼女は拍子抜けしてしまいそこに立っていることしか出来なかった。

しかし、俺はパーティーメンバーの選択を間違ってしまったらしい。なぜならこの彼女こそが現魔王だったからである！

(後書き)

最後まで読んで頂いて感謝しております。

なんでもよろしいので評価感想頂ければ勉強にもなるので嬉しいです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0395h/>

---

パーティーメンバーは...！

2010年11月12日07時32分発行